

一話 題一

新型コロナウイルス感染症と
嗅覚・味覚障害について日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科
吉野 綾穂

はじめに

2019年末に始まった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行に伴い、その特徴的な臨床症状として嗅覚・味覚障害が注目を集めた。

2020年に報告されたヨーロッパ12施設で施行された調査において、軽度から中等度のCOVID-19患者417名のうち、86%の患者が嗅覚障害を、88%の患者が味覚障害を報告した¹。その後各国から報告された論文をもとにシステマティックレビュー、メタアナリシスが行われ²、PCR陽性患者の53%が嗅覚障害を、44%の患者が味覚障害を発症していたことから、急性発症の嗅覚・味覚障害をCOVID-19の発症を疑う症状の一つであるとの警告もなされた。2021年末からのオミクロン株への変遷に伴い、嗅覚・味覚障害の発生頻度は低下したが、その爆発的な感染力により、COVID-19による嗅覚障害・味覚障害患者は現在でも一定数みられている。

嗅覚・味覚障害の特徴

2020年初頭に行われたLechienらの調査¹では、PCR陽性患者の約8割において嗅覚・味覚障害が認められたことに対して、鼻閉、鼻漏、咽頭痛などの上気道炎症症状の発生は10%程度であり、上気道炎症症状を認めない急性発症の嗅覚・味覚障害はCOVID-19の特徴的な症状といえた。オミクロン株への変遷に伴い、嗅覚・味覚障害の発症頻度は減少し、咽頭痛などの上気道炎症症状が主となった。

また、COVID-19による嗅覚・味覚症状の特徴として、発症時点では高度の障害であるにもかかわらず、比較的早期に症状の改善がみられることが挙げられる。2020年にHopkinsらが³、発症時86%に嗅覚脱失が見られたのに対し、1週間後のフォローアップでは嗅覚脱失を示していたのはわずかに17%であったと報告している³。この嗅覚障害の早期回復に関しては、嗅粘膜の炎症による気導性嗅覚障害が原因であり、嗅神経にまで障害が及ばないことによるものであろうと推測されている⁴。

しかしながら、嗅覚・味覚障害が長期にわたって持続する症例も存在する。厚生労働省の調査では、診断後半年で7%に嗅覚障害が、9%に味覚障害が残存することが報告されている⁵。また、においはわかるが以前と異なって感

じる、においがしない場所でも常に何かしらにおいを感じるという異臭症を訴える患者も少なからず存在する。

嗅覚・味覚障害の治療

現在のところ、COVID-19による嗅覚・味覚障害に対して確固たる治療法は確立していない。感冒後嗅覚障害に準じて、クエン酸ナトリウムによる点鼻治療やビタミンA、オメガ3脂肪酸、亜鉛、 α リポ酸などの補充療法、嗅覚トレーニングが行われることが多い⁶。

本邦では、亜鉛、漢方製剤、ステロイド点鼻および内服、ビタミン製剤などが感冒後嗅覚障害の治療として使用されており、COVID-19による嗅覚障害患者に対しても同様の治療を行うケースが散見される。

嗅覚トレーニングは2009年にHummelらが報告した治療法で、4種類の香り(バラ、ユーカリ、レモン、クローブ)を1日に2回ずつ12週間にわたって嗅ぐ訓練を施行するものである⁷。2022年に行われたシステマティックレビューでは、COVID-19による嗅覚障害に対する嗅覚トレーニングの有用性が報告されている⁸。

筆者は2019年に嗅覚トレーニングを提唱したHummelの研究室へ半年間留学した背景もあり、当院では、内服や点鼻治療に加えて、嗅覚トレーニングを積極的に取り入れている。2020年以降はHummelらの方法に準じて嗅覚トレーニングキットを院内で作成し嗅覚トレーニング指導を行ってきたが、2023年9月にニールメッド株式会社より嗅覚トレーニングキットSmell restoreが発売されて以降はそちらのキットも案内している。日常生活においても、食事や洗濯などの際に、意識して食事や洗濯物の匂いを嗅ぐことも嗅覚トレーニングの一つであると患者に指導を行っている。

嗅覚や味覚は生命の維持に必要な機能と認識されることは少なく、患者自身が大きな問題だと思わずに受診しないケースも散見される。しかしながら、食事が楽しめなくなり栄養摂取に影響が出る恐れや、ガス漏れなどに気づかず危険が迫っていることに気付けないというリスクもある。

一方、医療施設側の問題点として、嗅覚検査や味覚検査は、検査が可能な施設が圧倒的に少なく、現状では大学病院など限られた施設でのみでしか検査を行うことができない⁹。適切な評価を行うまでのハードルが高いことも今後解決していかなければならない重要な問題である。

Conflict of Interest: 開示すべき利益相反はなし。

文 献

1. Lechien JR, Chiesa-Estomba CM, De Siati DR, et al: Olfactory and gustatory dysfunctions as a clinical presentation of mild-to-moderate forms of the coronavirus disease (COVID-19): a multicenter European study. Eur Arch Otorhinolaryngol 2020;

- 277: 2251–2261.
2. Tong JY, Wong A, Zhu D, Fastenberg JH, Tham T: The Prevalence of Olfactory and Gustatory Dysfunction in COVID-19 Patients: A Systematic Review and Meta-analysis. *Otolaryngol Head Neck Surg* 2020; 163: 3–11.
 3. Hopkins C, Surda P, Whitehead E, Kumar BN: Early recovery following new onset anosmia during the COVID-19 pandemic — an observational cohort study. *J Otolaryngol Head Neck Surg* 2020; 49: 26.
 4. Eliezer M, Hamel AL, Houdart E, et al.: Loss of smell in patients with COVID-19: MRI data reveal a transient edema of the olfactory clefts. *Neurology* 2020; 95: e3145–e3152.
 5. 厚生労働省：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き 罹患後症状のマネジメント 第2.0版. <https://www.mhlw.go.jp/content/001001502.pdf>
 6. Neta FI, Fernandes ACL, Vale AJM, et al.: Pathophysiology and possible treatments for olfactory-gustatory disorders in patients affected by COVID-19. *Curr Res Pharmacol Drug Discov* 2021; 2: 100035.
 7. Hummel T, Rissom K, Reden J, Hahner A, Weidenbecher M, Huttenbrink KB: Effects of

olfactory training in patients with olfactory loss. *Laryngoscope* 2009; 119: 496–499.

8. Hwang SH, Kim SW, Basurrah MA, Kim DH: The Efficacy of Olfactory Training as a Treatment for Olfactory Disorders Caused by Coronavirus Disease-2019: A Systematic Review and Meta-Analysis. *Am J Rhinol Allergy* 2023; 37: 495–501.
9. Yoshino A, Murakami R, Hosoya K, et al.: A Nationwide survey of safety protocols and chemosensory assessments by Japanese clinicians pre- and post-COVID-19 pandemic. *Auris Nasus Larynx* 2024; 51: 640–646.

（受付：2024年6月12日）

（受理：2024年7月18日）

日本医科大学医学会雑誌は、本論文に対して、クリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際（CC BY NC ND）ライセンス（<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>）を採用した。ライセンス採用後も、すべての論文の著作権については、日本医科大学医学会が保持するものとする。ライセンスが付与された論文については、非営利目的の場合、元の論文のクレジットを表示することを条件に、すべての者が、ダウンロード、二次使用、複製、再印刷、頒布を行うことが出来る。